

新ICT利活用サービス創出支援事業(電子出版環境整備事業) 事業評価会

評価者のコメント

プロジェクト アクセシビリティを考慮した電子出版サービスの実現
代表機関 一般社団法人電子出版制作・流通協議会
共同提案組織 株式会社電通、京セラ丸善システムインテグレーション株式会社、
株式会社日立コンサルティング

(1)これまでの実績に対する評価 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

- さまざまな要因で通常の電子書籍を利用しづらい人たちに対して電子書籍を提供するための環境整備を行うプロジェクトとして高く評価する。また、これまでの実績も優れたものであり、今後これが活用されることを期待する。
- 目的は正しく是非実現して欲しいテーマではあるが、今回のプロジェクトはカバーする範囲が広すぎ、結果としてガイドラインの詳細度や実効性が大きく異なるし相互の関連性も薄い。
- 非常に価値のあるガイドラインや仕様が策定されたと評価できる。
- 日本語をすべての人に提供しうるシステムの開発は、国の責務として取り組むべき課題であって、電子出版の普及と並行して行われるべきである。このための研究としてほぼ充分なところと思料する。
- 開発目標を達成したことは素直に評価する。また動向調査の範囲も広く、役立つものである。電子書籍は書籍としてでなくネットとも連動する形で利用されるので、ネット側の技術標準との整合性が必要である。この点について報告書への記述がなく、評価会でも説明がなかったのは残念である。評価B
- 読書障害者への支援サービス実施のために、4つの合理的な項目を挙げ、参加各社による4つのWGを立ち上げて取り組み、一定の成果を上げつつある。

(2)今後の取組に対する評価、留意点 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

- 今後の継続的な取り組みに期待する。また今回いくつもの仕様が作成されておるが、アクセシビリティを配慮してこれを実装する端末、あるいはこれに対応するコンテンツが今後急速に出現するかどうかはいささか疑問が残る。電子書籍フォーマットの標準化の流れにのり、それらの一部として取り込まれ標準的な仕様になるようにする努力が必要なのではないかと考える。録音図書に関する規格としてDaisyがあつてこれが広く普及しているように、国際標準化されることを期待する。
- もっと大局的にアクセシビリティが良い電子出版を飛躍的に増加させるに利するようなガイドラインを目指すべき。技術面よりも機能面にフォーカスしてつめるべき。

- 電子出版制作・流通協議会内の「アクセシビリティ技術活用推進部会」をベースに、関連企業や団体の採用を広げるとともにそれらへの支援を活発に継続すべきである。また、技術的には、画像データからのテキスト情報抽出ガイドラインは、今後のEPUB3などとの整合性も考慮すべきである。
- 次に、各アクセシビリティの確保について、具体的なシステム開発を行う段階になる。その体制（開発資金を含む）をいかに創るかが課題である。
- 評価会で「次第に浸透していこう」という他人任せの発言があったが、これに象徴されるように普及施策が具体的に提示されていない点に不満がある。総務省としても数年間、継続観察してもよいのではないか。評価C
- 本成果の普及には数年-10年かかるとの見通しであるが、ボランティアなどによる支援が行われている現状を踏まえると、もっと早期の普及促進を図るべきではないかとの印象を持った。